

発行：海外養殖魚研究会

連絡先 〒171 東京都豊島区南池袋

3-15-13 前田ビル205号

(株)国際水産技術開発内

TEL 03-982-7139

No. 13. Nov. 1980

第14回海外養殖魚研究会が、9月12日、(株)国際水産技術開発で開かれました。

- [テーマ1.] インドネシア浅海養殖のアイゴについて 田中 秀幸氏
- 。ジャワ島セラン県のバンテン湾において、インドネシア浅海養殖プロジェクトの一環として初歩的なアイゴ養殖試験を行なった。
  - 。インドネシアでは7種類のアイゴを確認したが、*Siganus canaliculatus* (シモフリアイゴ)と、*S. javus* (ジャワアイゴ)が非常に多く見受けられた。バンテン湾においては*S. canaliculatus*が優占種であった。主にミルクフィッシュを養殖している汽水池(Tambak)は塩分濃度範囲は8~35ppt.と広いが、取りあげ時の観察で*S. javus*, *S. vermiculatus* (ムシクイアイゴ), *S. guttatus* (ゴマアイゴ)が見受けられた。
  - 。 *S. canaliculatus* と *S. javus* 種苗の出現時期は11~12月と4~5月の2回にわたって大きなピークを示し、そのサイズは体長3.5cm内外であった。種苗はアジ藻場付近(塩分濃度33~34ppt.)に小群を形成し、盛期には1網(50m長の畝間)で2,000~3,000尾の採集が可能である。
  - 。昭和55年5月10日より8月21日まで103日間をわたり、*S. javus*を用いて飼料比較試験を行なった。2m×2m×2m(深さ)の網生簀を10面使用し、体長3.5cmの種苗2000尾を各生簀に収容した。試験区は(1)ペレット+魚肉(主にバガンで漁獲される雑魚)、(2)ペレット+海藻(主に褐藻類)、(3)ペレット+腐らせた野菜くず、(4)ペレットおよび(5)野菜くずの5区分とした。試験途中、網生簀の破損による供試魚の散逸等のアクシデントが生じた試験区も

あり、各区ごとの結果は出たかった。(1)、(2)および(4)の試験区において結果が得られ、(1)区は8.6cm、(2)区は5.8cm、(4)区は7.5cmの成長を示した。一般的傾向として、試験開始当初は動物質飼料群の方が成長率が良いが、成長するに従って植物質飼料群の方が成長率が良くなってくる。

- 全長8cm、体長6.5gの稚魚を用いて飽食量を調べたところ、体長の27~30%であった。
- 3月末に収容した *S. canaliculatus* と *S. javus* を6ヶ月間飼育し、現在体長12cm、体重20gに成長しているが、飼育当初は *S. canaliculatus* の方が成長は早いですが、大きくなるにつれて *S. javus* の成長がまっすぐくる。また、体長10cm以上になると、90%以上の歩留り率を示した。

## [テーマ2.] コイ科魚類の脳下垂体摘出実習

---

### 第15回海外養殖魚研究会のお知らせ

下記の要領で第15回研究会を開催いたしますので、ふるってご参加下さい。

1. 日時 11月28日(金) 6:00PMより
2. 場所 OAFIC会議室
3. テーマ ① バングラディシユの水産について 座間味  
② マレーシアの水産について 玉栄